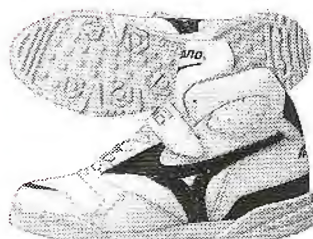
MIZUNO®
THE WORLD OF SPORTS

UNIVERSIADE '95
FUKUOKA
★★★★
©FUOC－S103
Official Supplier

軽さが進化したニューラインアップ。





通気性と防水性が合体した
ニューエアリー採用。
ウィングゾーン OD-L ¥11,000
16KH-40109 サイズ:23.0〜29.0
ホワイト/パープルにブラック/ゴールド 他1色
●甲:人工皮革 ●底:ゴム、合成樹脂 SORBOTHANE



アウトドア専用のグリップ性能。
ウィングゾーン OD-S ¥7,900
16KH-41162 サイズ:23.0〜29.0
ホワイト/ネイビーにレッド/シルバー 他1色
●甲:人工皮革 ●底:ゴム、合成樹脂 SORBOTHANE

攻守に、弾む。ハンドボール協会公認の検定球、準検定球。



16OH-202
¥4,700
検定球
亀甲型
天然皮革2号
HL-2



16OH-203
¥4,800
検定球
亀甲型
天然皮革3号
HL-3



16OH-212
¥4,400
準検定球
亀甲型
天然皮革2号
HL-2A

RUNBIRD
ATHLETIC FOOTWEAR



●記載価格はすべて税抜き価格です。消費税相当額はお客様にご負担いただくことになります。
●ミズノ製品についてのお問い合わせ・ご相談は――「ミズノお客様商品相談センターMUSIC」 TEL:東京(03)3233-7110 大阪(06)614-8110

95年度事業予定(案)

(財)日本ハンドボール協会

月	全国大会	会場	その他
95/4			2～4 第3回アジア女子ジュニア選手権 韓国・ソウル 6～8 第5回アジア選手権(女子) 韓国・ソウル
5	12～14 第36回全日本実業団選手権大会(男子) 12～14 第36回全日本実業団選手権大会(女子)	大阪市中央体育館 愛知県体育館	7～21 第14回世界選手権(男子) アイスランド
6			
7	28～30 第15回全国クラブ選手権 29～31 第8回全国小学生ハンドボール大会	高松市総合体育館・香川県立体育館 京都府田辺町田辺中央体育館	
8	2～7 第46回全日本高校選手権 5～6 第22回全国高等専門学校選手権 9～13 第38回全日本教職員選手権 19～22 第24回全日本中学校大会 17～21 東日本学生選手権 15～19 西日本学生選手権	倉敷市水島緑地福田公園体育館、県立青陵高等学校 大阪府立体育館 広島市佐伯区スポーツセンター体育館、湧永満之記念体育館他 埼玉県草加市健康都市記念体育館 函館市民体育館他 名古屋市天白区スポーツセンター他	28～9/10 第8回アジア選手権(男子) クウェート
9			6～18 第10回女子ジュニア世界選手権 ブラジル
10	15～19 第50回国民体育大会 24～ 第20回日本リーグ(前期)(～12/10)	福島県本宮町総合体育館他、石川町総合体育館他 各地	
11	14～19 第38回全日本学生選手権大会	宮城県仙台市体育館	
12	14～17 第47回全日本総合選手権(男子) 21～24 第47回全日本総合選手権(女子) 26～28 第4回JOCジュニアオリンピックカップ	東京体育館 神戸市総合運動公園グリーンアリーナ 大阪府堺市立大浜体育館他	5～17 第12回世界選手権(女子) ハンガリー・オーストリア
96/1	6～ 第20回日本リーグ(後期)(～3/17)	各地	
2	10～12 第27回全日本実業団トーナメント(男子) 10～12 第4回全日本実業団トーナメント(女子)	福井県・北陸電力体育館 福井県・北陸電力体育館	
3	25～28 第19回全国高等学校選抜大会 28～31 第20回日本リーグプレイオフ	愛知県体育館 東京	

日本協会だより

平成6年度第3回理事会

日時　平成7年2月4日(土)13時～17時30分
場所　大崎電気本社第三会議室
出席　中澤専務理事、松本、大野監事、常務理事9名、理事6名、参事6名　合計24名

◎会議に先立ち

一、世界選手権大会の映像で構成されたハンドボール指導ビデオを紹介。拡販の依頼がなされた。

二、1997年熊本開催の男子世界選手権大会のシンボルマーク、キャラクター、マスコットの候補案の紹介がなされた。

三、阪神大震災に対し当協会として義捐金100万円を朝日新聞に寄託した旨報告された。また、ハンドボール協会関係についての人身の災害については特に情報がない旨報告がなされた。

四、神奈川県協会若崎会長が逝去されたことが報告され、出席者全員でご冥福を祈り黙禱を捧げた。

◎議題

一、平成7年度行事日程について
　原案通り承認。

二、平成7年度部門別事業計画について
　全日本総合選手権大会女子の部は、世界選手権大会と日程が重複するため、女子のみ日程を変更し神戸で開催が決定していた。しかし今回の阪神大震災により再度の変更が懸念されたが兵庫県協会より現状開催可能と判断するとの報告により予定通り（12月21日から24日）とすることとした。
　その他原案通り承認。

三、平成7年度事業予算について
　7年度は景気の低迷によりオリンピックキャンペーンよりの補助金、スポーツ振興基金からの補助とも更に減額が見込まれるため各部門の予算は原則として前年度並みに押さえ、更に登録金の改正により収入増を図らざるを得ない。強化費の不足分は特別委員会組織のご協力、ご援助を仰ぐこととした。
　従来、別個に処理していた日本リーグ会計を7年度より日本協会会計に一本化することとなった。

四、平成7年度登録金について
　一般会計の収支改善及び登録管理のより精度向上（国体出場枠見直しに必要な競技人口の把握）のためコンピューター導入等の財源確保のためにも、登録金を改定することについて審議した。

ア．登録区分は従来のまま未登録にて県内大会のみに出場していたチームに『リージョナル』という区分を設け登録を義務付けることとした。

イ．7年度より個人登録制度を明確にし、正確な競技人口の把握に努める。但し、高校、高専への本制度の適用は次年度以夅とする。尚、本制度の

CONTENTS

95年度事業予定(案)……1
日本協会だより……2
第19回日本リーグ総括……殿水幸雄……4
全日本実業団トーナメント大会……川岡成徳……10
全日本女子チーム新スタッフ紹介……11
長野冬季オリンピック・シンポジウムに参加して……山下　泉……12
第14回男子世界選手権大会に挑む……蒲生晴明……13
第19回日本リーグ優勝報告……14
　男子／中村荷役、女子／大崎電気工業
日本リーグ一部昇格チーム紹介……16
　イズミ・日本電気・ブラザー工業
第２回東日本小学生大会……小西博喜……18
第１回西日本小学生大会……小西博喜……19
フリースロー……早川文司……20
各地の大会結果……21

導入に伴い従来認められていた三重登録は今後認められないこととした。

五、登録のコンピューター処理について

個人登録制度の導入に伴う事務処理量の増大に対処し、より正確なデータを作成するために、コンピューターを導入することについて審議、承認した。

六、全日本総合選手権大会の出場数及び推薦枠について

平成7年度分について提案があったが会場等の事情が許せば女子も男子と同数の16チームとしたい旨の意見あり。開催地と調整のうえ次回に決定することとした。

七、女子ナショナルチームコーチについて

コーチとして高野亮氏（東京女子体育大）、西窪勝広氏（オムロン）を承認。

◎報告事項

八、世界選手権大会について

組織体系図、組織委員会名簿、組織委員会規約、平成7年度予算案について報告あり。

シンボルマークについても候補を絞り、5月の世界選手権大会（アイスランド）からPRに使用開始を目標に検討中。

九、特別委員会について

去る2月3日に平成6年度第2回オーナー会議が開催され、懸案の特別委員会が具体的に活動を開始した旨報告（詳細は3月号に掲載ずみ）。

4月度行事予定

●ナショナル活動

3/28～4/5　男子・第一次強化合宿

4/10～5/6　男子・ヨーロッパ遠征（スイス他）

●会議

4/8　4月度常務理事会

臨時常務理事会

日時　平成7年2月11日(土)10時～12時

場所　岸記念体育館B1会議室

出席　中澤専務理事、常務理事7名、福地理事

◎議題

一、外国籍選手の登録について

日本協会登録は制限しない。但し日本協会主催の大会の大会登録（大会エントリー）は平成7年度に限り3名としコート上も3名とするが、各大会の大会要項が優先する。平成8年度以降は大会登録3名、コート上2名とすることで引き続き検討する。

二、スポーツ指導者在外研修について

強化委員会で検討し2月28日までに回答することとした。被推薦者は日体協公認指導者が望ましいとの条件が確認された。

アメリカ、タイ、マレーシア、フィリピン等への指導者派遣等については積極的に検討することとした。

三、強化予算について

平成7年度の強化関連予算は前年度までのアジア大会対策の上積みを除いた平年並みとし、特別委員会からの強化費を上積みすることを承認した。

四、全日本総合選手権大会出場枠について

平成7年度は女子を2チーム追加、男女とも16チームとすることとした。

平成6年度第2回評議員会

日時　平成7年2月11日(土)13時～16時30分

場所　岸記念体育館504会議室

出席　渡邊副会長、評議員23名、他に委任状22名、中澤専務理事、常務理事7名

開会に先立ち神奈川県協会若崎会長のご逝去が報告され、故人のご冥福を祈り黙祷をした。

昨年の「わかしゃち国体」の開催地代表として豊田市・知立市・三好町の関係者からお礼の挨拶があった。

◎議題

一、平成7年度行事日程について

原案通り承認。

二、平成7年度事業予算について

原案通り承認。遠征の個人負担の低減に努力してほしい旨の提案があった。

三、平成7年度登録金について

平成7年度よりの登録金改正について説明、前回の全国理事会で検討の結果「一般B」の区分は従来通りとする。高専、高校の個人登録金は当面、徴収しないこととした旨報告し了承を求めた。これに対し学生の負担が過大ではないか、事前に各都道府県の状況把握に努めて欲しい、改定は即実施でなく1年の猶予がほしい等の意見が出されたが原案通り承認。

尚、今回新設された「リージョナル」の部は、従来都道府県協会のみの把握で日本協会登録に結びついていなかったが、競技人口を正確に把握する必要から設定したので協力してほしいとの依頼がなされた。

◎報告事項

97世界選手権大会（熊本）の準備活動状況について報告された。

第19回日本リーグ総括

戦国リーグを制した 男子中村荷役、女子大崎電気

日本リーグ運営委員長　殿水　幸雄

第19回日本リーグは11月5日(土)に開幕し、12月4日(日)に前期が終了したが、後期は突然ＩＨＦの指示により1995年男子世界選手権アジア予選3位決定戦（日本対サウジアラビア）が12月30日フランスにて開催されることになったほか、1月17日(月)に起きた阪神大震災の災害によりリーグの大幅な日程変更があり、突発的な問題が起きながらも2月5日のプレーオフ大会をもって無事終了することができた。後期日程の大幅変更により関係者及び開催地の方にご協力とご迷惑をおかけしました事をこの紙面にてお礼とお詫びを申し上げます。

さて前期を終了した男子は、2分をはさんで無傷の大同特殊鋼がトップ、2位の中村荷役、3位の日新製鋼、4位の湧永製薬が勝ち点差2で追う展開。

女子についてはオムロン、大崎電気、北国銀行、日立栃木が星のつぶし合いで、オムロン、大崎電気が同勝点で1、2位を争って、以下北国銀行、日立栃木と続く激戦となった。

この様な展開で2月5日(日)、プレーオフ全日程を終了した今期戦国リーグを追ってみることにしよう。

■一部男子

トップを走る大同特殊鋼と中村荷役が後期開幕でいきなり直接対決となった。前期は互いにゆずらず引き分け、前期と後期の間に全日本総合で決勝を戦っており、1点差というシーソーゲームの末、大同特殊鋼が勝利を手にした。その後期、大同特殊鋼は2位中村荷役をＧＫ林の守りと末岡、林を中心とした攻撃で中村荷役をつきはなした。

中盤戦に入り、対三陽商会では岩本、田中、渡辺らの活躍で苦戦したが、終了寸前の末岡の7ＭＴで勝利を決めてここまで負けなしの8勝2分とし、以後勝ち星を集めて通算12勝2分（1位）で終える。

前期2位でスタートした中村荷役は、リーグ初優勝の文字を背に一丸となって臨んだ後期はいきなり大同特殊鋼との対決。力は充実しているものの、攻撃がから回りして大同特殊鋼の堅い守りに点を取れずに善戦すれど黒星のスタートとなった。しかし中盤戦から気を取り戻して白星を重ねたが、終盤戦の本田技研熊本戦は点は取るもののディフェンスが守れず苦戦するが辛くも逃げ切った。次の大崎電気戦では大崎電気が早くも最終戦を迎えるとあって気合い十分。来年の20回リーグに向け良い形で終りたい大崎電気のディフェンスは呉、趙にダブルマンツーで戦う。点が取れないで苦しむ中村荷役に対して、大崎電気は魚住のロング、速攻シュートと幅のある攻撃で中村荷役は痛い黒星となった。

プレーオフに向けて不安材料を残したゲームで最終戦を迎えた中村荷役は、プレーオフで戦う可能性のある日新製鋼との対決に若手で臨んだ。日新製鋼に快勝し通算9勝2敗2分（2位）で終える。

前期3位で折り返した日新製鋼は、後期中盤まで快調に白星を重ね、監督兼選手の西山、エース堀田などの活躍で後半戦に入るが、三陽商会戦に引き分け。もたつくが後期元気のない本田技研に勝ってプレーオフ出場を獲得。最終戦のプレーオフで戦う中村荷役との対決は若手中心で臨んだが、40得点を奪われて終了。通算8勝4敗2分、3位でプレーオフ準決勝へ。

前期4位で折り返した名門湧永製薬は、新旧交代のひずみから得意のコンビプレーの力を出し切れず、上位チームに前後期共に白星を取れなかったのが最後まで尾を引いてしまって、予想外の結果で日程を終了し、通算7勝4敗3分（4位）で終った。

三陽商会は岩本、田中、渡辺の全日本トリオを中心に、ＧＫ荒木などの踏ん張りでリーグ加入以来初めて入替戦から免れ、通算4勝8敗2分（5位）で終った。

リーグ通算500ゴールを前期2戦目に得点した首藤を軸とする大崎電気は、魚住、新人賞の森本、永山らのベテランと若手のコンビ

がもう少しというところで、6位、通算5勝9敗で終った。

ここ3年連続3位と力が安定している本田技研であったが、後期に入り2分をはさんで白星を一度も上げられず、同僚である本田技研熊本にも敗れリーグ加入以来初めて入替戦となる通算3勝9敗2分（7位）に終った。

本田技研熊本は大中、児玉らを中心に1部リーグに臨んだが、壁は厚く黒星を重ねた。後期後半戦からやっとエンジンがかかり本田技研に1勝し、二部チームより昇格したチーム連敗を86でストップした。通算1勝13敗（8位）で終了し二部へ自動的に降格となった。

この結果、プレーオフに残ったのは大同特殊鋼、中村荷役、日新製鋼となる。まず準決勝は中村荷役と日新製鋼であるが、前半はまったくの互角の戦いであったが、後半は中村荷役の守りと攻撃が爆発。終ってみれば7点差というゲームで、中村荷役に軍配が上がった。

決勝は波に乗る中村荷役がリーグ1位の大同特殊鋼と激突。初優勝を意識して前半15分まで中村セブンは堅くなり点が取れない。一方、大同特殊鋼は着々と得点を重ねていく。しかし15分を過ぎた頃から中村荷役に堅さが取れ、GK井上、呉、趙らにエンジンがかかり、残り5分で追いつき逆転して前半を9－8で折り返す。後半に入り波に乗る中村荷役は、ディフェンスから速攻と、持ち前の力を発揮し後半16－6の大差で大同特殊鋼の攻撃を抑え、初のリーグ優勝を果たした。MVPは13得点をたたき出した趙に輝いた。

■一部女子

女子は今期リーグより8チームとなり、プレーオフも導入されるとあって各チームの意気込みも上り、混戦となった。その中で二部から返り咲いた大崎電気がオムロン戦以外で平均得点31点を取る一方、失点も23点とし攻守共に安定。白、朴を中心に、目黒、本間、広瀬らの踏ん張りと女王復活を目指してのチーム一丸となったチームワークで後期負けなしの13勝1敗（1位）で終える。

対するオムロンは前期1敗の1位で折り返したが、日立栃木、大和銀行に苦杯をなめ、予想外の不安な後期スタートとなったが、残り試合を古田、内村、GK王などの活躍で無難に乗り切り、前回チャンピオンの意地を見せ通算10勝4敗（2位）でプレーオフ出場権を獲得した。

表彰選手

一部リーグ	男子		女子	
最高殊勲選手賞	趙　範衍（中村荷役）		白　仁淑（大崎電気）	
得点王	趙　範衍（中村荷役）	124点	田中美音子（大和銀行）	121点
フィールド得点王	呉　龍基（中村荷役）	109点	朴　正林（大崎電気）	92点
7mスロー得点王	堀田　幸夫（日新製鋼）	35点	田中美音子（大和銀行）	44点
シュート率賞	源内　利之（日新製鋼）	0.622	谷本　泉（北国銀行）	0.679
7mスロー阻止率	宇田川竜也（日新製鋼）	16本	久保美枝子（JUKI）	21本
最優秀新人賞	森本　彰宏（大崎電気）		久保　幸江（大和銀行）	
最優秀監督賞	松本　勇（中村荷役）		矢内　宏（大崎電気）	
ベストプレイヤー賞	GK林　康一（大同特殊鋼）		GK王　涛（オムロン）	
	CP林　珍錫（大同特殊鋼）		CP朴　正林（大崎電気）	
	CP末岡　政広（大同特殊鋼）		CP白　仁淑（大崎電気）	
	CP趙　範衍（中村荷役）		CP古田　千明（オムロン）	
	CP呉　龍基（中村荷役）		CP谷本　泉（北国銀行）	
	CP堀田　幸夫（日新製鋼）		CP田中美音子（大和銀行）	
	CP源内　利之（日新製鋼）		CP土師　基子（ジャスコ）	
フェアプレー賞	大崎電気	5.36	シャトレーゼ	3.14

二部リーグ	男子		女子	
最多得点賞	岡部　哲也（トヨタ車体）	117点	姜　鍾景（イズミ）	57点
フィールド得点賞	岡部　哲也（トヨタ車体）	101点	姜　鍾景（イズミ）	57点
7mスロー得点賞	宮本　和昌（トクヤマ）	21点	桜井　知子（ムネカタ）	22点
シュート率賞	岡部　哲也（トヨタ車体）	0.652	安田　文（ブラザー工業）	0.863
敢闘賞	柴田　勲（豊田自動織機）		小林ゆり子（イズミ）	
	大澤　清孝（豊田自動織機）		西　朋子（ブラザー工業）	
	三羽　信利（大阪ガス）		山川　由加（ブラザー工業）	
	角谷喜代重（北陸電力）		林　すみえ（ソニー国分）	
			長木　まみ（ソニー国分）	
フェアプレー賞	トヨタ自動車	2.71	ブラザー工業	4.00

北国銀行は前期3位と出遅れたが、後期に入り新監督荷川取の指揮のもと上出を中心によくまとまり、谷本、松下などの活躍で頑張りを見せて後期も5勝2敗とし通算10勝4敗（3位）でプレーオフ出場権をものにした。

前期4位と一歩出遅れた日立栃木は、後期から中国の王を加えて臨み、ベテラン市来、陳、伊佐野が後半調子を上げたが、いま一歩でプレーオフに望みをつなげなかった。通算9勝5敗（4位）に終った。

シャトレーゼは前期4位と出遅れて、後期にかけてGK村山を軸に小松、鶴田のベテランと若手主体のチームで頑張りを図ったが、上位チームにいま一歩及ばず通算7勝7敗（5位）に終った。

大和銀行は前期6位と元気がなく、後期に入り上位チームに食い下がるものの白星をあげる事が出来ないが、オムロン戦、田中、久保ら若手の活躍で一矢を報いたが通算5勝9敗（6位）で終った。

7位と出遅れ、水をあけられたジャスコは土師を中心に山田らで頑張るが、もう一つ波に乗れず、通算2勝12敗（7位）で終り、入替戦行きとなった。

JUKIは前期8位と久々の一部で苦戦。後期は一部リーグにも慣れ、GK久保、永尾、飯田らが踏ん張り、他のチームを苦しめるもののあと一歩の所で白星をあげることが出来ない。リーグ途中で、来年度から会社事情により日本リーグからJUKIの名前が消えてしまうことが決まった。後期最終戦は地元東京での日立栃木戦。結果は1点差で惜しくも敗れはしたもののJUKIセブンのはつらつとしたプレーに拍手を送りたい。ご苦労様でした。通算0勝14敗の8位だった。

プレーオフに名乗りをあげたのは大崎電気、オムロン、北国銀行であるが、まずオムロン対北国銀行の準決勝はリーグ戦では1勝1敗と共に1点差のイーブンできている。前半は両者一歩も譲らずシーソーゲームを展開し10－9でオムロンリード。後半、オムロンは吉田、内村など3連続ゴールで点差を広げ優位に立った。一方、北国銀行も松下、上出らが頑張りを見せるが、前半と後半の出だしの点差をつめることが出来ずタイムアップとなった。

決勝は接戦をものにしたオムロンと、1位で待っていた大崎電気の対戦である。前半、いきなり大崎電気・白が2連続ゴールで先制。あとに続けとばかりに朴、目黒がゲット。守りのオムロンに対して前半で16－10とリードをつける。

後半、オムロンは守りを固め、GK王も必死のセーブをするが、大崎電気の攻撃の糸が切れない。オムロンも残り5分に怒涛の5連続ゴールを取るが、この日の大崎電気には問題のない得点である。終ってみれば31－20と大量点差で大崎電気の3年振り8回目の優勝となった。MVPはチームのムードメーカーである白に送られた。

JUKI㈱が日本リーグ一時撤退

第19回日本リーグ終了後、JUKI㈱より第20回日本リーグ（平成7年度）より、リーグ加盟を一時辞退の申し入れがあった。

名門JUKI㈱は数々の名選手を生み、また第1回日本リーグ発足より長年女子チームをここまで引っ張ってこられ貢献されただけに、今回の辞退は誠に残念なことである。

これは業界の景気回復の遅れ及び円高為替差損のため、業績がまだ回復していないので一時リストラ活動の成果が生まれるまでに、まだ若干の期間が必要であるとの判断で活動規模の縮小をすることになったもの。なお日本リーグ以外の各種大会には、従来通り参加する予定である。JUKI㈱は日本リーグへの再加盟も将来準備を進めていく方針であるので、早い時期に復帰されることを期待したい。

平成6年度プレーオフ成績

（2月3日～5日／駒沢体育館）

●男子

プレーオフ準決勝（2月4日）

中村荷役（リーグ2位）	37	16－16 21－14	30	日新製鋼（リーグ3位）

プレーオフ決勝（2月5日）

中村荷役	25	9－8 16－6	14	大同特殊鋼（リーグ1位）

●女子

プレーオフ準決勝（2月3日）

オムロン（リーグ2位）	21	10－9 11－8	17	北国銀行（リーグ3位）

プレーオフ決勝（2月4日）

大崎電気（リーグ1位）	31	16－10 15－10	20	オムロン

以上の結果、第19回日本リーグの成績は、
男子1位中村荷役、2位大同特殊鋼、3位日新製鋼、
女子1位大崎電気、2位オムロン、3位北国銀行となった。

■二部男子

男子二部も激戦が展開され、日本電装、トヨタ車体、トヨタ自動車と後期後半戦まで星のつぶし合いで行方がわからなく、最終戦までもつれこんだ末に1位の日本電装がトヨタ車体に敗れ、トヨタ車体と同勝ち点となったが、対戦間で前期の貯金があったため日本電装が初の一部リーグに昇格した。以下順位はトヨタ車体が2位、トヨタ自動車3位、北陸電力4位、三景5位、初の二部リーグで挑戦したトクヤマも頑張って6位、大阪ガス7位、豊田自動織機8位となった。

一部入替戦に挑戦したトヨタ車体は本田技研のスピードと高さについて行けず、2戦ともに大量得点差で敗れ、一部帰り咲きが出来なかった。20回大会の日本リーグ二部入りを目指したアラコは、豊田自動織機とチャレンジマッチを行ったが、日本リーグの壁は厚く2戦を戦ったが敗れ、リーグ加入がならなかった。

■二部女子

二部は久々の女子新生チーム・イズミを迎えて4チーム3回総当りで行った。新加入イズミの活躍いかんと興味を抱かせた1位争いは、ブラザー工業とイズミの一騎打ちとなった最終戦、1勝1敗で迎えた第3ラウンドはイズミの美、林が踏ん張りブラザー工業を2点差で破り、1年の二部生活で20回リーグより早や一部リーグに名乗りを上げた。

2位のブラザー工業も山川、日比野で頑張り、一部7位のジャスコとの入替戦も2連勝して、一部昇格を果たした。

次いでソニー国分が接戦するものの僅差で敗れ、白星を集める事が出来ず3位となった。ムネカタは気力を出して頑張ったが、最後まで立て直す事が出来ず最下位となった。

第19回日本リーグ成績

■一部男子

1位	大同特殊鋼	(12勝0敗2分	：勝点26)プレーオフ決勝へ
2位	中村荷役	(9勝2敗3分	：勝点21)プレーオフ準決勝へ
3位	日新製鋼	(8勝4敗2分	：勝点18)プレーオフ準決勝へ
4位	湧永製薬	(7勝4敗3分	：勝点17)
5位	三陽商会	(4勝8敗2分	：勝点10)
6位	大崎電気	(5勝9敗	：勝点10)
7位	本田技研	(3勝9敗2分	：勝点8)二部2位と入替戦へ
8位	本田技研熊本	(1勝13敗	：勝点2)二部へ降格

■一部女子

1位	大崎電気	(13勝1敗	：勝点26)プレーオフ決勝へ
2位	オムロン	(10勝4敗	：勝点20)プレーオフ準決勝へ
3位	北国銀行	(10勝4敗	：勝点20)プレーオフ準決勝へ
4位	日立栃木	(9勝5敗	：勝点18)
5位	シャトレーゼ	(7勝7敗	：勝点14)
6位	大和銀行	(5勝9敗	：勝点10)
7位	ジャスコ	(2勝12敗	：勝点 4)二部2位との入替戦へ
8位	ＪＵＫＩ	(0勝14敗	：勝点 0)二部へ降格

■二部男子

1位	日本電装	(12勝2敗	：勝点24)一部へ自動昇格
2位	トヨタ車体	(12勝2敗	：勝点24)一部7位と入替戦へ
3位	トヨタ自動車	(10勝4敗	：勝点20)
4位	北陸電力	(6勝8敗	：勝点12)
5位	三　景	(4勝9敗1分	：勝点9)
6位	トクヤマ	(4勝9敗1分	：勝点9)
7位	大阪ガス	(4勝10敗	：勝点8)
8位	豊田自動織機	(3勝11敗	：勝点6)二部入替戦へ

※1、2位は当該チーム間の得失点差、5、6位は勝点差による。

■二部女子

1位	イズミ	(7勝2敗	：勝点14)
2位	ブラザー工業	(7勝2敗	：勝点14)
3位	ソニー国分	(4勝5敗	：勝点 8)
4位	ムネカタ	(0勝9敗	：勝点0)

※1、2位は当該チーム間の勝点差による。

◆入替戦：一部7位のＪＵＫＩと二部2位のブラザー工業の対戦によりブラザー工業が一部に昇格決定。

第19回日本ハンドボールリーグ成績表

[1部男子]	日新製鋼	湧永製菓	本田技研	大同特殊	中村荷役	大崎電気	三陽商会	本田熊本	勝数	分数	敗数	勝点	総得点	総失点	差	順位
日新製鋼		○24○35	○25○31	△26●25	●28●25	●17○33	○25△26	○27○34	8	2	4	18	377	346	37	3
湧永製菓	●20●22		○25△25	●17●19	△25△29	○29○32	○26○31	○32○29	7	3	4	17	361	328	33	4
本田技研	●24●24	●22△26		●20●21	●19●19	○32●19	○25△15	○23●18	3	2	9	8	306	312	- 6	7
大同特殊鋼	△26○29	○21○27	○22○24		△21○29	○27○22	○23○16	○33○35	12	2	0	26	355	275	80	1
中村荷役	○30○40	△25△29	○24○29	△21●21		○30●23	○22○33	○34○32	9	3	2	21	393	333	60	2
大崎電気	○18●20	●20●25	●20○21	●24●18	●18○28		●20●23	○31○33	5	0	9	10	319	359	- 40	6
三陽商会	●23△26	●15●27	●12△15	●21●15	●21●24	○24○28		○34○28	4	2	8	10	313	323	- 10	5
本田技研熊本	●19●19	●14●19	●20○19	●14●13	●25●26	●19●24	●24●14		1	0	13	2	269	423	-154	8

※5－6位は対戦間成績による。

[1部女子]	オムロン	北国銀行	日立栃木	ジャスコ	シャトレ	大崎電気	大和銀行	JUKI	勝数	分数	敗数	勝点	総得点	総失点	差	順位
オムロン		●19○17	○23●21	○28○27	○17○25	○23●18	○38●21	○24○20	10	0	4	20	321	245	76	2
北国銀行	○20●16		●23○23	○32○29	○23○24	●27●25	○30○34	○22○27	10	0	4	20	355	305	50	3
日立栃木	●18○22	○31●22		○34○25	●22○29	●29●25	○32○36	○29○29	9	0	5	18	383	336	47	4
ジャスコ	●15●12	●23●19	●20●17		●23●21	●20●23	●21●20	○27○17	2	0	12	4	278	379	-101	7
シャトレーゼ	●14●19	●18●20	○25●22	○27○23		●23●24	○20○25	○23○18	7	0	7	14	301	316	- 15	5
大崎電気	●20○23	○31○28	○31○34	○31○31	○26○31		○32○36	○31○33	13	0	1	26	418	325	93	1
大和銀行	●15○22	●19●21	●28●27	○25○28	●19●24	●24●27		○26○25	5	0	9	10	330	383	- 53	6
JUKI	●16●13	●17●20	●14●28	●23●16	●15●17	●17●20	●21●17		0	0	14	0	254	351	- 97	8

※2－3位は総得失点差による。

[2部男子]	トヨタ車体	日本電装	北陸電力	トヨタ	三景	大阪ガス	豊田織機	トクヤマ	勝数	分数	敗数	勝点	総得点	総失点	差	順位
トヨタ車体		●28○26	○26○36	○32●23	○32○33	○29○35	○38○26	○27○24	12	0	2	24	415	305	110	2
日本電装	○33●25		○30○33	●23○31	○33○36	○35○29	○34○31	○30○22	12	0	2	24	425	312	113	1
北陸電力	●17●22	●22●27		●22●20	○37○29	●23○25	○33○38	○24●21	6	0	8	12	360	371	- 11	4
トヨタ自動車	●20○27	○24●21	○37○25		○30○30	○34●18	○36○30	○25●23	10	0	4	20	380	322	58	3
三景	●22●23	●14●18	●22●25	●20●25		○27○25	○33●24	○29△25	4	1	9	9	332	393	- 61	5
大阪ガス	●21●21	●26●19	○28●22	●23○22	●16●21		○35■0	●20○22	4	0	10	8	296	350	- 54	7
豊田自動織機	●16●23	●22●21	●25●16	●20●18	●21○26	●19□12		○26●21	3	0	11	6	286	401	-116	8
トクヤマ	●16●19	●24●20	●21○25	●19○24	●24△25	○24●15	●19○24		4	1	9	9	299	338	- 39	6

※1－2位は対戦間得失点差による。5－6位は対戦間成績による。

[2部女子]	プラザー工業	ソニー国分	ムネカタ	イズミ	勝数	分数	敗数	勝点	総得点	総失点	差	順位
プラザー工業		○25○31○35	○44○36○33	●27○30●22	7	0	2	14	283	215	68	2
ソニー国分	●24●28●20		○25○30○24	●12○25●18	4	0	5	8	206	240	-34	3
ムネカタ	●25●21●20	●24●26●21		●21●13●16	0	0	9	0	187	252	-65	4
イズミ	○32●21○24	○28●24○26	○26○24○23		7	0	2	14	228	184	44	1

※1－2位は対戦間成績による。

社会を豊かに、おもしろくするオムロン

OMRON

街や家庭で。私たちは
さまざまな場面での便利さや快適さを考え、
豊かな未来を創造していきます。



オムロン株式会社　本　社　〒600 京都市下京区烏丸通七条下ル　東京本社　〒105 東京都港区虎ノ門3-4-10

---

asics®

そのグリップ力が、フットワークを変えた。

スカイハンド®GC-α。



かかる加重に合わせて5つのグリップホール
がフロアをしっかりグリップ。
敵のディフェンスをくぐり抜け、自在のフットワーク
を生む、スカイハンド® GC-α。

がんばれ! ニッポン! キャンペーン

JGS-18
OFFICIAL SPONSOR

品名 スカイハンド®GC-α 品番 THH502 メーカー希望小売価格 ¥14,500(消費税抜き)
カラー/●ホワイト×Ⓦグレイッシュパープル・メタルゴールド　●レッド×Ⓦパールホワイト・メタルゴールド
サイズ/23.0〜28.0cm

GELCHARGER®

株式会社アシックス　●Ⓡは㈱アシックスの登録商標です。●商品についてのお問い合わせは株式会社アシックスお客様相談窓口までどうぞ。〒650 神戸市中央区港島中町7丁目1番1 TEL(078)303-2233(専用)・(078)303-3333(大代表) 〒130 東京都墨田区錦糸4丁目10番1号 TEL(03)3624-1814(専用)・(03)3624-2221(大代表)

全日本実業団トーナメント大会

男子・本田技研熊本が初優勝に輝く!

中四国担当理事　川岡　成徳

去る2月10日から12日まで、広島県呉市の呉市体育館と日新製鋼呉体育館において、男子26チーム、女子3チームが参加して実業団トーナメント大会が行われた。

1月17日の阪神大震災という大変不幸な出来事により6チーム（男子）の不参加という思わぬ事態となったが、お陰様で参加各チームの協力により無事大会を開催することが出来た。

開会式では地元・日新製鋼呉鉄球会の林原主将が「阪神大震災のため出場できなくなったチーム、選手のためにも頑張ります」と力強い選手宣誓が行われた。そして試合会場の入口には、実業団連盟の呼び掛けにより、義援金箱も設置され、選手、役員から多くの義援金が寄せられた。なお、集まった義援金は実連の義援金と合わせて大会後援新聞社の朝日新聞社を通じて被災者へ送られた。

さて、ゲームの方は男子は有力チームが順当に勝ち上がり、中でも地元・広島県のマツダ、日新製鋼呉鉄球会、山口県のトクヤマ、東ソーの4チームがベスト8に入る活躍をした。準決勝ではトヨタ自動車対日新製鋼呉鉄球会、本田技研熊本対マツダが対戦し、共に日本リーグ一部及び一部経験チームの本田技研熊本、トヨタ自動車が攻守に勝り決勝に進出した。

決勝では、本田技研熊本はトヨタ自動車に対してスピードと変化のある攻撃を展開し、前半を13—7で終わり、トヨタ自動車はエースの三輪を準決勝でケガのため欠いたため、要不在の苦戦を強いられた。後半、トヨタ自動車もスピーディーな速攻から鋭いシュートを見せたが、前半の失点を返せず、本田技研熊本が22—16で初優勝に輝いた。

女子は初出場のイズミが大会2日目に2試合という悪条件の中、キャプテン長久を中心によくまとまり、自衛隊体育学校、ソニー国分を連破して日本リーグ二部同様に今大会初出場で初優勝の快挙を成し遂げた。

なお、この大会の上位男子3チーム、女子2チームは5月11日から14日までの男子・大阪、女子・名古屋開催の第35回全日本実業団選手権大会の出場権を得た。

全日本実業団トーナメント成績

男子



3位決定戦
日清鉄球会29−16マツダ

女子

イズミ(広島)	17−11	自衛隊体育学校(東京)
イズミ	19−16	ソニー国分(鹿児島)
ソニー国分	28−20	自衛隊体育学校

全日本女子チーム新スタッフ紹介

ナショナルチーム

●監督　櫻塚　正一



1944年生まれ。日体大卒。現在武庫川大監督

●コーチ　西窪　勝広



1954年生まれ。中大卒。現在オムロン監督

●コーチ　高野　亮



順天堂大卒。現在東京女子体育大監督

ジュニアチーム

●監督　伊藤　宏幸



1951年生まれ。日体大卒。現在日立栃木監督

●コーチ　志賀　良弘



1956年生まれ。大体大卒。現在大和銀行監督

●コーチ　井上　亮一



1947年生まれ。日体大卒。現在夙川学院高校監督

（敬称略）

長野冬季オリンピック シンポジウムに参加して

常務理事　山下　泉

去る2月14日、長野オリンピックの開催まで丁度3年を残すだけとなり、準備状況が目に見えて進んでいる長野市において、『心のこもったおもてなし』をテーマにシンポジウムが開かれた。

長野オリンピック（NAOC）事務局次長・西村直吉氏、NAOCボランティア推進会議常務理事・小出博治氏と一緒に、広島アジア大会の経験者を代表し、パネリストとして参加しました。

広島アジア大会を開催した意義や大会後の効果、そして市民が大会にどのような形で参加したかについて話しました。特にボランティア活動で最も成功した公民館の〝一館一国、地域の応援事業〟の具体的な方法や語学ボランティアの問題点について発表しました。

最後に「長野とアジアの交流活動はどの様に進めるべきか、ニュービジネスチャンスはあるか」など3時間にわたり熱心にディスカッションを展開しました。会場にはニュービジネス協議会と長野県の共催のため、若い経営者が多く、長野オリンピックという大事業を行政まかせでなく、積極的に関わりながら長野を活性化し、自らを変え、事業に活かし、利用しようとする姿勢に熱いものを感じました。



長野オリンピック組織委員長は日本ハンドボール協会と同じ斉藤英四郎会長であり、非常に親しみを感じました。成功を祈りながら長野を後にした。

我がハンドボール界も2年後の5月、熊本で開催される世界選手権大会を必ず成功させなくてはなりません。全国のハンドボーラーが総力を上げて協力と参加を切望します。メジャー化に向けてのこのチャンスを生かそうではありませんか。

第14回男子世界選手権大会に挑む

全日本男子ハンドボールチーム監督　蒲生　晴明

◆はじめに

昨年12月30日にフランス・パリで標記大会のアジア第三代表決定戦が、数々のトラブルにもかかわらずIHF、フランスハンドボール協会、日本協会の方々のバックアップにより無事行われた。そして、このゲームに勝利することができ、スタッフ、選手一同、感謝の気持ちと新たなるステップが踏めたところである。

◆第14回世界選手権の展望について

男子全日本チームが世界選手権の出場権を獲得したのは、90年、旧チェコスロバキア大会以来5年振りである。以前は16カ国=4ケ国・4グループでの予選からのスタートであったが、前回の世界選手権から24ケ国出場となり、予選も6ケ国・4グループで各グループの上位4ケ国が決勝トーナメントに進み、優勝を争うことになった。

各グループの組み合わせは下記の通りである。日本チームはCグループにランクされた。(各グループの順位はシード順)

Aグループ=スイス・アイスランド・ハンガリー・チュニジア・韓国・アメリカ

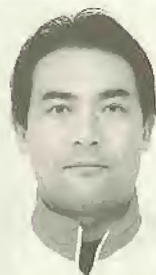
Bグループ=ロシア・チェコ・クロアチア・キューバ・スベロニア・モロッコ

Cグループ=フランス・ドイツ・デンマーク・日本・アルジェリア・ルーマニア

Dグループ=スウェーデン・スペイン・エジプト・ベラルーシ・ブラジル・クウェート

現在の全日本チームは、昨年のアジア大会から少しずつではあるが着実にその実力をつけてきており、左のエース・岩本（三陽商会）、右のエース・山中（湧永製薬）をはじめ全員が精神的にも逞しく成長してきていることや、ディフェンス力の向上と橋本（本田技研）・林（大同特殊鋼）、井上（中村荷役）の3人のゴールキーパーが安定したキーピングをしており、以前に増して世界選手権で国際試合をするのが楽しみである。

目標として、上位入賞を狙っていきたいと考えている。具体的に言えば、アトランタオリンピック出場権－7位以内入賞－は最大の目標であり、持てる力を全て出して行くつもりである。従って、予選リーグでは最低2勝、あわよくば3勝をターゲットとしてトレーニングをしていきたいと考えている。

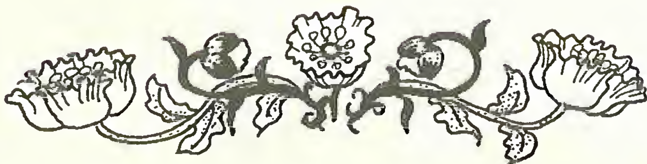


本大会までの強化活動としては、2～3月は2メートル・100キロの選手を相手に対等に戦えるだけの基礎体力と運動量の増加を実施していき、4月上旬からヨーロッパに遠征に出かけ、各国とのトレーニングマッチや親善ゲームを数多く行っていくスケジュールを計画している。私の経験では、日本でトレーニングして行くよりも、ヨーロッパでトレーニングとゲームをしているほうが効果は大きく、時差対策は基よりヨーロッパのチームに「慣れる」という点では大変大切であると考えているところである。

いずれにしても、今回の世界選手権で、我々の最大の目標であるアトランタオリンピック出場権を獲得出来るに越したことはないけれども、世界選手権出場経験と上位入賞の実績が、本年9月に開催される第8回アジア選手権大会（兼アトランタオリンピック予選）、更に97年熊本世界選手権大会に向けての弾みになっていくものと考えている。

◆おわりに

1984年以来10年間にわたり、全日本チームで大活躍した首藤選手（大崎電気）がこの大会前に引退することになったが、彼のリーダーシップとその活躍でここまでチームが成長してきたことに感謝したい。彼のためにも今回の目標が達成できるように勇往邁進していきたいと考えている。



故先代社長に捧げる初優勝

男子・中村荷役　監督　**松本　勇**

　第19回日本リーグにおいて初優勝を果たすことが出来、本当に嬉しく、全社を挙げて喜んでいるところです。

　今期リーグにおいては、昨年のチームの流れから着実にV奪取に近付いており、スローガンであるタイトル奪取も非常に現実味を帯びてきたと感じておりました。その要因として、一つは有望新人・木浪の加入によりディフェンス面での補強が充実。また、韓国から第三のスーパープレイヤー趙の加入が決まり、オフェンス面でのパワーアップが期待できたからです。二つ目には、昨年のリーグで前期2位で折返しながら、後期はプレッシャーに押し潰され5位に終わり、メンタルな部分での苦しい経験を積んだこと。三つ目には、全日本総合選手権で初のベスト4入りを果たし、また併せて湧永製薬に勝利し一部リーグ以来、ようやく上位チームすべてに白星をあげることができ、どのチームに対しても互角に戦える土壌ができたことが挙げられます。



　以上、好材料のもと、5月のJBHプレジデントカップで優勝を果たし、幸先の良いスタートを切りましたが、8月に木浪の左足首骨折と思わぬアクシデントに見舞われ、構想が大幅に狂いましたが、アジア大会後の趙の招聘は予定通り進み、リーグ直前の10月25日、チームに合流しリーグに突入しました。

　結果、前期は5勝2分の負けなしの2位で折返し、合間の全日本総合選手権では初の決勝進出で惜敗したものの、チームとしては大舞台を経験しました。このことも今回の優勝への大きなステップとなりました。

　後期に入り、ディフェンス面での課題が克服できず、苦しい展開で進んでいきましたが、何とかプレーオフの切符を手にすることができ、最終戦で待望の木浪の復活が叶い、プレーオフへの期待を膨らませました。

　結果は木浪の投入によりディフェンスが準決勝、決勝と尻上りにかみ合い、大同を14失点と今期最高のディフェンスで押えて優勝を遂げることができました。

　ここ2、3年のチームはと言いますと、勝ち星を挙げる度にムードが上昇。徐々にタイトルを意識しはじめてきました。しかし、まだまだかが5位が最高のチームだと怠慢プレーを排除し、またメンタルな部分では優勝チームは選手一人一人がどんな姿勢をしているのかを意識させることで、本当の意味でチームが一つになっていきました。このことが優勝につながったのだと思います。

　創部15年目、一部リーグ入り5年目という快挙ですが、当社のハンドボール部は会社の中で唯一公認のクラブであり、選手は一般社員と同じ様に定時まで仕事をし、それから練習と、アマスポーツの原点である仕事とクラブの両立を目指し頑張ってきました。一部リーグにあって自社の体育館もなく、練習環境は非常に厳しい状況にありますが、唯一公認のクラブだけに社内における視線も熱く、全社員のサポートは計り知れないものがあります。そういう意味では、まさしく今回の優勝は全社で勝ち得たものだと思っております。

　しかし、もう一点、忘れてはならないことがあります。それは7年前に二部リーグ最下位という部の存続が危ぶまれた時期がありました。この一番苦しい時に部の立て直しを全面的に支援して下さったのが故中村昭光社長です。当然、創設者でもあるわけですが、この時の英断がなければ、今日、この優勝はなかったと思います。

　韓国選手の招聘に始まり、社内の環境整備等、着実に立て直しが行われ、社内の士気が高まってきた矢先の昨年の5月に、突然ご逝

第19回日本リーグ優勝報告



去されました。部員一同、深い悲しみの中、今期リーグに臨んだわけですが、そういう意味ではこの優勝を一番喜んでおられるのは故先代社長ではないかと思います。

　最後になりましたが、この初優勝にあたり、大学、高校、並びに各協会の関係各位のご支援に対して改めて感謝したいと思います。また、この優勝を機に、これまで以上に強いチーム作りを目指し、来期も多くのハンドボールファンに感動を与えられます様、チーム一丸となり頑張る所存ですので、今後ともご声援、ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

負けないチーム作りに邁進

女子・大崎電気工業　監督　矢内　浩

第19回日本リーグ(プレーオフ)を終了して、「3年振り8回目の優勝」をすることが出来、大変喜んでおります。これも偏にファンの皆様の応援や、会社の支援があったからだと思っております。

　私は3年前に監督に就任しましたが、その時期のベテランと若手の切り替えに失敗して、入替戦に行き、創部以来はじめて「二部に転落」。私にとっても選手にとっても同様に地獄を見ることになってしまいました。

　前年度まで日本リーグ5連覇したチームが、まさかの二部リーグ落ち。伝統のある大崎電気が、その時、私は責任の重さに「だめかも」と自信をなくしたこともありました。しかし、その時の「負け犬にはなりたくない」の思いが3年後の優勝につながったと思います。

　今、この3年間を振り返ってみると、1年目には韓国(金、尹)の選手が使えず、若い選手をスタメンから入れ(1年目・広瀬、2年目・目黒)ゲームをしたが、やはり若手に荷が重く(1勝9敗)入替戦行き、二部落ち。

　2年目には韓国より(朴、白)の新加入があり、また、大学より(今野、本間)即戦力のGK、ポストが入って、さらに1年目で屈辱を味わった野田、宗片、北村、目黒、広瀬らの頑張りで、1年間で一部リーグへ復帰出来たのではないかと私は思っています。

　最後に、私が監督に就任した時に5年で芽が出なければと考えていたが、3年間で結果を出せたのは選手たちの頑張りだと心より思っています。

　今後の目標は、いかに負けないチーム作りをする事だと思って、これまで以上に努力して行くつもりでおります。

★日本リーグ一部昇格チーム紹介★

イズミハンドボール部

一つでも多い勝利を目指して

監督　松本　義樹

まず、創部間もない、何の実績もないチームに日本リーグという桧舞台を与えていただいたことに、感謝を申し上げます。

その幸運を胸に、選手たちと共に精一杯背伸びして戦ってまいりましたが、二部優勝、一部昇格というこの上ない結果を出す事ができました。この二つの幸運にひたっている今日この頃でございます。

思えば、当初3年くらいで一部昇格を狙えるチームに育てあげようという計画でありましたが、昨年にはアジア大会の関係で日本リーグも11月開幕ということもあり、その間、チーム強化に専念出来たこともよかったと思います。当初はリーグがどういうものか、知っている選手はただ一人、小林のみという若いチームを、どう意識改革を図るかが私の最大のテーマでありました。このため、大和銀行の緒方さんに協力を得、合同合宿もさせて頂いたことも選手たちには大いに自信になりました。また、広島県ハンドボール協会の協力を得て、6月、中国遠征に2週間にわたり参加させて頂き、中国ナショナルチーム、韓国の光州市庁チーム、中国ジュニアチームとの対戦もよい経験になりました。



そしてアジア大会においてもコート係をさせて頂きながら、カザフスタンとの練習試合など、何かハンドボール界の中心にいるのではないかと勘違いする程、いろいろな行事に取り囲まれて日本リーグを迎えたのも、今ながら考えると良かったと思います。

そういう状況のなかで、選手11人が個人レベルの違いはありますが、その中で各人が自分の持つ力を精一杯発揮し、また選手は一部に昇格するんだという大きな目標を共有したチームワークで、長久キャプテンを中心によくまとまってくれました。

11月6日の緒戦、対ブラザー戦に勝利したことが、流れをすべてプラスに変えたことには間違いありません。現実に実業団のリーグでやっていけるか半信半疑だった若手も、はっきり自信を持ち、意欲も変わってきました。ゲームを重ねる度に、高いレベルの主力によくついていき、力を付けたのも収穫でした。そして、終ってみれば最速の一部昇格という最高の栄誉を、選手たちはプレゼントをしてくれました。

いろいろなことがたくさんありました。それらがすべてプラス面に結集し、結果に結び付いたものと思います。また、先進日本リーグの他チームに比べても倍する会社のバックアップ、また広島県、市、呉市ハンドボール協会の皆様のおかげと感謝致しております。スポーツ後援会の加入企業様、社員の皆様の温かいご支援も選手たちの心の支えとなりました。

来シーズンは日本リーグ一部という今年よりも数段高いレベルでの戦いになりますが、少しずつ足元を固め、今年同様、一つでも多くの勝利と、一つでも上位を目指して、選手と共に頑張る覚悟でございます。今後ともご指導の程よろしくお願い致します。

日本電装ハンドボール部

地道な努力が実を結ぶ

監督　河合　喜六

第19回日本ハンドボールリーグ二部において、我が日本電装ハンドボール部は初のリーグ優勝、一部入りを成し遂げることが出来ました。

昨年は2位となり、初の入替戦に臨んだものの見事に一部の壁にはね返されました。その悔しさをバネに今年度取り組んで来たことは、基礎トレーニングの積み重ねです。飛び抜けた背の高い選手がいる訳でもなく、新人加入での戦力アップも図られなかった今年度は、こうした地道な努力の積み重ねで15人という少ない選手一人一人のレベルアップを図り、「守って速攻」のチームカラーに磨きをかけることでした。

11月からスタートした今リーグは「燃えよ、若さだ、日本電装！」のスローガンに「挑戦」の2文字を加え、満を持して臨んだのですが、初戦の豊田織機戦で主力選手の山内が左肩脱臼の怪我をしてしまい、先行きの厳しさを暗示された様な幕開けとなりました。前期を終えて、トヨタ自動車、そしてトヨタ車体、そして我が日本電装が共に星をつぶしあって並んで迎えた後期の初戦、今度はポストで頑張る橋本選手が足首負傷のアクシデント。更に追い討ちをかけるように12月23日の湯沢大会を終え家路についた私に、届いた知らせが実母の死でした。25日の知立大会と葬儀が重なり、久本コーチ兼任選手にチームを任すといったゲームの内容以前の問題が矢継早に襲ってきました。これらの難関を乗り切れたのはもちろん、最終戦で勝てば優勝、負けたら3位の瀬戸際でトヨタ自動車に勝てたのも、1年間やり通した基礎トレーニングの積み重ねと、一人一人のレベルアップが図られた結果だと考えます。

昭和48年に同好会として誕生した我がチームは、昭和57年に部活動と正式に認められ新しいスタートを切りました。その年度より監督となった私は、新入社員リスト



からの経験者集め、部活動への職場の人達への理解と協力のお願い回りから一歩を踏み出しました。

その後、一歩一歩前進を重ね、平成元年に日本リーグ二部入りを果たすことが出来、更に着実に階段を登り続け6年目にしてここまで来ることが出来ました。創部から13年目です。

監督となった当初の目標は、日本リーグ入りではなく、一番身近でトヨタ系各社では最大の大会であった全豊田総合競技大会の予選でベスト4に残り、本大会に出場することでした。つまり先陣チームのトヨタ車体、トヨタ自動車、豊田織機に追い付き、各社が職場をあげての大声援を繰り広げる舞台に立つことだったのです。それが実現すると次は、自分たちの努力によって実現可能な目標を掲げ、その達成にそれぞれの年代の選手が一丸となり取り組み、一つずつ達成してきたのです。この積み重ねの結果として、日本リーグ入りの目標も生まれ、その達成も実現出来たのです。

また創部以来、私が選手に言い続けて来たことは「良きハンドボーラーの前に良きデンソーマン、良き社会人となれ」ということです。社会人として一人前の仕事が出来て初めて職場の人達の理解と協力が得られる訳であり、これが実業団チームの原点であると考えるからです。

さて、来シーズンより一部初見参する訳ですが、日本電装らしいゲーム展開が出来ればと考えています。そのための技術面、体力面のレベルアップを図って行き、コート狭しと走り回るスピードハンドボールに磨きをかけ、更なる挑戦をします。

ブラザー工業ハンドボール部

日本リーグ一部昇格について

監督　田中　俊行

標題について寄稿を依頼されましたが、一部昇格についてという大それたものではなく、自戒の念も含めて平成6年度のシーズンを振り返ってみたいと思います。

シーズンを満足のいく結果で終えるためには、三つの大きなテーマがありました。まず最大のテーマは、〃ステップワークドリルの完成〃です。昨シーズンの試合期は3ケ月に15試合という短期集中型で、選手とチームのコンディショニングがゲームを左右する可能性がありました。障害を引き起こさないということと技術を確実に伸ばすために、基礎体力の向上とステップワークの習得が急務でありました。具体的な狙いとしては、①母指球荷重、②膝の角度、③方向づけ、④力の分散、⑤筋肉で支えることに主眼を置き、それ自体を目的としたドリルだけではなく、ボールを使った基礎技術練習の中でもチェックをするよう心がけてきました。

結果的には膝や足首の障害は減り、戦列を離脱する選手もなく、安定したメンバーでシーズンを終えることができたことは、成果のあらわれであったと自負しています。しかし、負荷の高い状態での統一性や、よりパワフルな動きへの対応といった点では、まだまだ達成率は低いと考えられます。

次に若手選手の底上げが二つ目のテーマです。チーム練習だけでは見のがされがちになってしまう若手の個別練習の機会を多くし、成長が少しでも自覚できるよう工夫してきました。若手選手が台頭することにより、選手層が増大するとともにチーム内の活性化がはかられたと思います。しかし、責任ある試合や重大な局面での経験が絶対的に乏しく、そのカベを振り払うことが今シーズンの更なる課題であると言えます。



三番目はチーム戦術の徹底です。チーム戦術の理解度という点では熟練の時期になりますので、その質を高めていくことが大切でありました。そのためには、戦術を支えるべく基礎技術と基礎戦術の徹底をはかることはもとより、チームの欠点である〃雑さと淡白さ〃をなくすことが重要なポイントでありました。攻撃回数が平均して75回前後にも及び、ハイスコアなゲーム展開を得意とする攻撃型のチームの特長を考慮すれば、ディフェンス力の向上が大きなカギを握っていたことは言うまでもありません。また、当り前のことかも知れませんが、オフェンスチャンスを確実に得点に結びつけること、ゲームの局面での指示命令系統を明確にすること、速攻に対するディフェンス、ゲームの入り方、リバウンドやルーズボールを含めたボールと笛に対する集中力等、無意識に行わなければならないことを毎日の練習の中に浸透するように留意してきました。

〃雑さと淡白さ〃の払拭は私自身不満足であり、その不十分さがリーグ戦での奮戦につながっていたように思われます。

以上が昨シーズンのテーマではありましたが、まだまだ納得のできる内容のゲームは少なく、指導の力のなさを痛感しています。更にいいチームになるべく努力する所存でありますので、今後ともご指導のほどよろしくお願い致します。

チェリーカップ・第２回東日本小学生ハンドボール大会

男女とも富山県が2年連続の優勝

普及委員会委員長　　小西　博喜

本大会は平成４年第47回山形国体の優勝を契機に、将来の日本ハンドボール界をになって立つチビッコ軍団を一人でも多く集めたいと願う山形県協会・奥山重雄理事長の情熱を結集した大会である。特に、仁藤清一会長を中心とした支援体制が出来ていることは心強い限りであると理解したい。

大会は、去る１月14日から16日の３日間、積雪の時期であり、また関東の読売杯とも重なって、男子は福島、長野、岩手、富山、山形の５県、女子も長野、岩手、富山、山形の４県に留まったのは残念。

男子では過去の全国小学生大会で窪スポーツ少年団（富山）、上庄児童クラブ（富山）が共に上位の成績を挙げているが、今回でもそれぞれ１、２位と健闘、富山王国の片鱗を発揮した。一方、女子も同様、全国小学生大会で上位入賞の仏生寺スポーツ少年団（富山）が圧倒的な強さを見せて、２年連続２回目の優勝を飾った。

また、地元山形の男子東根スポ少は３位に、女子スポ少神町は２位と地元の声援に応えた。

出場チームは共通して男女共に長身選手が一人はいて、自分のチームの有利な展開をする時は、決め手になって難なく得点するのが目立った。

スポ少の場合は、他の種目に参加していることもあり、楽しく、興味を持たせて、少しでも長くハンドボールになじめる様、活動させるためには欠かせない貴重な東西の大会でもある。

平成７年度大会は、８月４日から６日の開催予定（東根市）であり、草の根ハンドボールの根っ子づくりに多数の参加を呼び掛けたい。とりわけ関東勢の出場を期待しよう。

「国体後の火を消さないで」の感動は、オリーブカップ第１回西日本小学生交流大会が香川町でもスタートを切るイベントが準備されているのが嬉しい。また京都府田辺町の全国小学生大会の経緯も同じ軌跡をたどっている。夢の大きな小学生大会３本柱の益々の発展を心から願って、雪の山形空港をあとにした。

東日本小学生大会成績

【男子】

▼予選リーグ

〈Ａブロック〉　埴生小学校ハンド（長野県）26−10本宮ハンドスポ少（福島県）　東根ハンドスポ少（山形県）29−4本宮ハンドスポ少　東根ハンドスポ少19−12埴生小学校ハンド

〈Ｂブロック〉　リトル・ハンド（岩手県）13−8スポ少神町ハンド（山形県）　上庄児童クラブ（富山県）19−5スポ少神町ハンド　上庄児童クラブ13−4リトル・ハンド

〈Ｃブロック〉　窪スポ少ハンド20−8尾花沢スポ少（山形県）

※スポ少な守谷クラブ（茨城県）棄権

▼決勝リーグ

上庄児童ク　14−8　東根スポ少
窪スポ少　17−10　東根スポ少
窪スポ少　15−5　上庄児童ク

（順位）①窪スポ少ハンド②上庄児童クラブ③東根スポ少

▼順位決定リーグ

埴生小学校　21−9リトルハンド
尾花沢スポ少15−14　埴生小学校
尾花沢スポ少12−7リトルハンド

（順位）④尾花沢スポ少⑤埴生小学校⑥リトル・ハンド

【女子】

▼予選リーグ

〈Ａブロック〉　仏生寺スポ少（富山県）20−8リトル・ハンド（岩手県）　仏生寺スポ少20−3東根ハンドスポ少（山形県）　東根ハンドスポ少18−10リトル・ハンド

〈Ｂブロック〉　スポ少神町ハンド（山形県）　4−4埴生小学校ハンド（長野県）　スポ少神町ハンド14−5尾花沢スポ少（山形県）　埴生小学校ハンド10−2尾花沢スポ少

▼決勝トーナメント

仏生寺スポ少13−5埴生小ハンド
スポ少神町　10−5　東根スポ少
仏生寺スポ少18−4　スポ少神町

▼３位決定戦

東根スポ少　7−5　埴生ハンド

オリーブカップ・第1回西日本小学生ハンドボール大会

男子は田辺東京都、女子は日岡大分が優勝

普及委員会委員長　小西　博喜

思いがけない阪神大震災で開催が危ぶまれ、大阪2チームの棄権はあったが、予定通り香川県香川町において去る2月11日(土)12日(日)の2日間、男女各12チームの参加によって開催することが出来た。

第一日目の夜には、ゲーム終了後、同一宿舎でチーム選手の紹介や保護者も加わって、お国自慢の郷土芸能の交流会も催され、なごやかな雰囲気で盛り上がった。また、敗者チームの交歓ゲームの企画もよかった。

競技は予想にたがわず男女ともレベルの高い九州勢の進出が目立った。男子4強には京都以外は3チームとも九州チーム、女子は4チームとも九州勢がそれぞれ順当に顔を並べ、九州勢の独壇場という形になった。

第2日目（最終日）は、男子準決勝の沖縄対宮崎、京都対熊本の顔合わせ。ともに個人技を生かした試合運びで、内間クラブ（沖縄）と田辺東小（京都）が競り勝ち、それぞれ決勝に進んだ。一方、女子は九州ブロック同士の知り尽くした仲間。九州大会の再現となり、沖縄対大分、熊本対宮崎の対戦。

決勝は小柄ながら攻守にバランスの取れた日岡クラブ（大分）を力で押す網津小（熊本）との対戦。

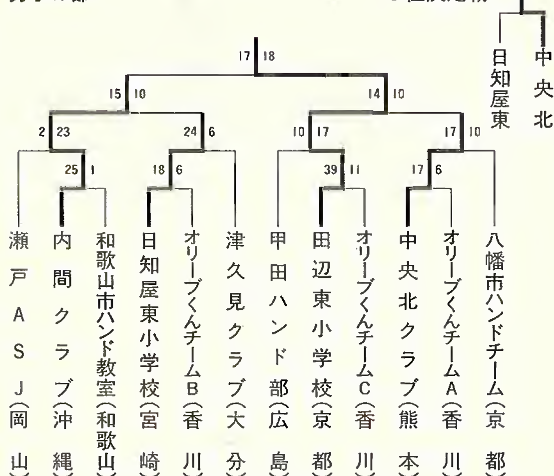
男子決勝は、内間クラブと田辺東。共に一進一退の接戦に息のつまる好ゲームを展開した。後半、タイムアップ前に田辺東小は速攻でポイントをあげ、逆転勝ちに成功し、優勝を飾った。また女子決勝は、日岡クラブの洗練されたパス、シュート技術が網津小を上回り、順当な優勝と言えよう。

男女とも決勝に進出したチームは攻撃のテクニックが多彩であり、優劣のつけ難いプレーを随所に見せ、指導者の綿密な指導を伺わせた。いずれも決勝にふさわしい予断を許さぬ真面目なプレーには好感が持てた。取り分け①少なくとも2人の個人プレーのエースを持つチームが有利、②よくボールを見ているプレーが、よいディフェンスにつながり、攻撃に転ずるチャンスも多い、③よくボールを回すチームにシュートチャンスがよくある等、感ずる点が多かった。

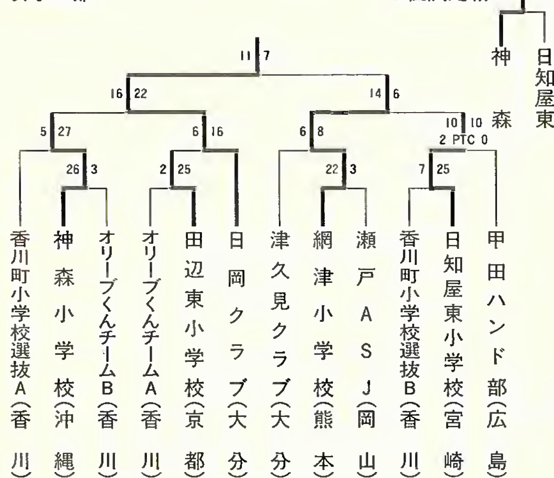
大会運営は、松原理事長、槙井コントローラーを中心に素晴らしい協力・支援体制ができており、香川県ハンドボール協会のご尽力に敬意を表したい。

平成7年度（平成8年2月10、11、12日、香川町）の大会での地元チームの躍進と、次回大会へ参加者の新しい夢を描きながら、本大会の一層の発展を願って止まない次第である。

男子の部



女子の部



フリースロー

「大きな虹を見たい」

企画・広報　早川　文司

米プロバスケットボール（NBA）の激しく、スピーディーで、華麗なプレーをテレビなどでご覧になり、興奮を覚えた人は多いことだろう。

そのNBAの昨シーズン最優秀選手、アキーム・オラジュワン（ヒューストン・ロケッツ）が、ハンドボールのオリンピック代表をねらっているという、跳び上がって喜びたいようなビッグニュースが世界を駆け巡った。

ナイジェリア出身のオラジュワンは、1992年に米国の国籍を得た。それなら同じバスケットボールで代表を目指してもよさそうなものだが、ルールの壁が立ちはだかっている。過去、ナイジェリア代表でアフリカ選手権に出場しているため、国際バスケットボール連盟の規定で米国代表にはなれないのだ。

その点、国際ハンドボール連盟は〝人情〟がある。2年間、元の国で代表に選ばれていなければ、新しい国籍での代表になることを拒んではいない。そこで高校時代、ジュニア代表の主将まで務めたことのあるハンドボールで代表を狙おうという気になったらしい。

ハンドボールにNBAのスターが加わることは、人気の盛り上げに大変結構なこと。日本でもテレビ放映されるだろうから、ハンドボールの楽しさ、面白さをアピールするには絶好のチャンスでもある。

ひょっとするとハンドボール・ブームが起きかねない―とひそかに期待するのは私ひとりではないはずだ。あの強靭な身体を生かしたコートいっぱいの走り、激しいプレーはファンを酔わせ、たん能させるに違いない。

米プロバスケットボールの押しも押されぬスターとはいえ、オリンピックというヒノキ舞台への出場はあこがれなのだろう。来年のアトランタ・オリンピック米国ハンドボール代表メンバーに「アキーラ・オラジュワン」の名前があることを期待しよう。バスケットボールの〝ドリーム〟でなく、ハンドボールの〝ドリーム〟誕生へ大きな虹を見たい。

各地の大会結果

全国大会

全日本総合選手権大会

（12月8日～11日／東京体育館他）

◎男子

▼1回戦

大同特殊鋼 43—20 大阪経済大
日本体育大 32—26 日本電装
大崎電気 33—18 京都教員ク
日新製鋼 29—25 トヨタ車体
本田技研 26—16 大同クラブ
中村荷役 38—27 大阪体育大
三陽商会 31—27 香川教員
湧永製薬 26—24 トヨタ自動車

▼2回戦

大同特殊鋼 30—20 日本体育大
大崎電気 28—26 日新製鋼
中村荷役 24—18 本田技研
湧永製薬 31—24 三陽商会

▼準決勝

大同特殊鋼 26—21 大崎電気
中村荷役 28—19 湧永製薬

▼決勝

大同特殊鋼 26—25 中村荷役

◎女子

▼1回戦

JUKI 23—20 東京女子体大
シャトレーゼ 24—23 筑波大
大和銀行 29—19 ジャスコ
日立栃木 26—24 日本体育大
大崎電気 37—19 小松ク女子
ブラザー工業 37—22 神奈川教員

▼2回戦

オムロン 24—18 JUKI
シャトレーゼ 27—22 大和銀行
大崎電気 31—27 日立栃木
北国銀行 33—28 ブラザー工業

▼準決勝

オムロン 23—18 シャトレーゼ
北国銀行 25—23 大崎電気

▼決勝

オムロン 21—19 北国銀行

東北

東北総合選手権大会

（1月28日、29日／仙台市体育館）

◎男子

▼1回戦

福島クラブ 27—18 仙台育英HC
青森クラブ 21—16 秋田大
白亜クラブ 27—22 山形新球会
青森マスタ 23—19 仙台大

▼2回戦

東根クラブ 30—16 青商クラブ
福島クラブ 28—23 花巻クラブ
湯沢HC 29—15 青森マスターズ
ふくしまク 36—11 白亜クラブ

▼準決勝

東根クラブ 21—17 福島クラブ
ふくしまク 28—21 湯沢HC

▼決勝

東根クラブ 21—20 ふくしまク

◎女子

▼1回戦

青森中央ク 18—16 日大山形高
盛岡第二高 42—11 大曲農OG
聖和学園高 36—14 あすなろク
福島教員 21—16 北村山高

▼2回戦

青森中央ク 26—23 福島クラブ
盛岡第二高 35—11 古川商クラブ
聖和学園高 29—12 白梅三英扶会
大曲農業高 19—14 福島教員

▼準決勝

盛岡第二高 26—15 青森中央ク
聖和学園高 27—12 大曲農業高

▼決勝

聖和学園高 21—18 盛岡第二高

関東

群馬県中学校大会

（11月3日・6日／富岡市民体育館）

◎男子

▼1回戦

下西中 21—11 下東中
南八幡中 14—13 藤岡北中
富岡南中 19—6 甘楽三中
甘楽二中 21—13 相生中
藤岡南中 24—0 松南中

▼2回戦

富岡東中 34—18 下西中
富岡西中 19—4 南八幡中
富岡南中 22—14 甘楽二中
富岡中 22—21 藤岡南中

▼準決勝

富岡東中 24—5 富岡西中
富岡南中 18—14 富岡中

▼決勝

富岡東中 29—12 富岡南中

◎女子

▼1回戦

富岡西中 24—4 矢中中
富岡中 25—7 塚沢中
富岡南中 19—4 相生中

▼準決勝

富岡東中 13—6 富岡西中
富岡中 15—11 富岡南中

▼決勝

富岡東中 13—11 富岡中

東京都高校秋季大会

（日時不明／会場不明）

◎男子

▼1回戦

都荻窪17—4都大森東　都墨田川18—3都東　都両国9—7都篠崎　専大付属36—9昭和第一高校　昭和第一学園27—12明星学園　都足立12—9都世田谷工　都淵江17—15都江戸川　日大二18—17都深川　都小金井北23—10都東村山　安田学園22—16都井草　中大杉並18—8都上野　都小岩26—16駒大高　巣鴨22—10都大島　都江北16—14都豊多摩　早大学院34—11都新宿　都国分寺24—17都清瀬　都武蔵26—9都田無工　都目黒19—18都白鷗　早実13—12都広尾　都

羽村16－5都館 都紅葉川22－10都石神井 都武蔵丘23－17都足立工

▼2回戦

都蒲田24－12都荻窪 城北学園15－14都墨田川 都八王子東21－19都保谷 都府中東19－12都府中西 開成28－3都両国 専大付属34－4佼成 中大付属25－13都小平南 昭和第一学園25－9都秋留台 都淵江26－12都足立 都杉並28－15日大二 錦城(棄権)都昭和 都田無14－10都小金井北 安田学園17－15都西 城西21－11中大杉並 都三鷹22－5都片倉 都富士森(棄権)都武蔵野北 都小岩28－8関東国際 都葛飾野27－10巣鴨 都南野25－6桜美林 科学技術学園22－12都日野 都本所20－12都江北 早大学院25－8学大付属 都国分寺28－5都小平 都武蔵17－10都東大和南 都目黒19－18都小石川工 筑波大駒場24－9早実 都北多摩18－10都砂川 都羽村27－6創価 都紅葉川19－13青山学院 都富士15－14都武蔵丘 都国立18－6都南平 都日野台18－9都調布北

▼3回戦

都蒲田16－13城北学園 都八王子東20－18都府中東 専大付属16－12開成 中大付属23－21昭和第一学園 都淵江34－21都杉並 都田無18－13錦城 安田学園24－19城西 都富士森26－13都三鷹 都小岩20－9都葛飾野 科学技術学園(棄権)都南野 早大学院25－14都本所 都国分寺27－14都武蔵 筑波大駒場16－11都目黒 都羽村23－8都北多摩 都富士16－12都紅葉川 都国立10－9都日野台

▼4回戦

都蒲田12－9都八王子 中大付属20－19専大付属 都淵江25－23都田無 都富士森23－16安田学園 科学技術学園17－15都小岩 早大学院14－13都国分寺 筑波大駒場15－8都羽村 都富士13－10都国立

▼5回戦

都蒲田23－10都久留米 都南多摩19－12中大付属 東海大菅生28－15都淵江 都富士森35－13都東大和 都神代27－8科学技術学園 早大学院20－11都久留米西 筑波大駒場17－13都立川 日体荏原18－17都富士

▼6回戦

明星28－6都蒲田 府中20－19都南多摩 永山21－16東海大菅生 東京19－11都富士森 農大一27－22都神代 早大学院13－11成城 筑波大駒場19－16武工大付属 拓大一39－4日体荏原

▼7回戦

明星33－9府中

永山19－12東京

農大一17－9早大学院

拓大一23－11筑波大駒場

▼準決勝

明星29－17永山

拓大一15－14農大一

▼3位決定戦

農大一22－15都永山

▼決勝

明星22－17拓大一

◎女子

▼1回戦

都小金井北9－3都小平 日大二11－6都墨田川 学大付属6－5農大一 都国分寺18－0都広尾 東海大菅生9－8拓大一 都久留米17－1都武蔵野北 都石神井11－10都西 青山学院(棄権)都雪谷 都白鷗9－2都武蔵丘 都神代18－3都日野台 都府中西12－3都保谷 都豊多摩4－2都葛飾南 都本所20－10都大崎 都東大和11－5都砂川 桐朋8－3都八王子東 立教女子19－9八雲 都江戸川9－4都桜水商

▼2回戦

文華女子14－4都調布北 武蔵野女子17－3都小金井北 日大二11－2都杉並 学大付属7－2都上野 都国分寺8－7都田無 東海大菅生9－6都久留米 都石神井24－5都深川 青山学院17－2都白鷗 桜華女学院15－12都神代 都南多摩17－7都府中西 東京15－2都豊多摩 都本所20－8関東国際 鶴川9－8都東大和 桐朋20－7都羽村 立教女子51－2都葛飾野 都目黒10－8都江戸川

▼3回戦

武蔵野女子8－3文華女子 学大付属12－2日大二 東海大菅生12－8都国分寺 都石神井12－11青山学院 桜華女学院19－6都南多摩 東京17－7都本所 鶴川10－5桐朋 立教女子30－2都目黒

▼4回戦

武蔵野女子9－6明星学園 都東大和南6－1学大付属 都久留米

西19－8東海大菅生　都富士7－6都石神井　桜華女学院15－0都南多摩　東京11－2都国立　鶴川11－4都富士森　立教女子29－5都五商

▼5回戦
文大杉並　11－5　武蔵野女子
菊　華　19－5　都東大和南
都久留米西　16－8　都府中
藤村女子　19－8　都富士
桜華女学院　19－6　都江東商
都蒲田　10－8　東京
白梅学園　棄権　鶴川
佼成女子　12－10　立教女子

▼6回戦
文大杉並　20－11　菊華
都久留米西　15－10　藤村女子
桜華女学院　15－14　都蒲田
白梅学園　11－6　佼成女子

▼準決勝
文大杉並　25－10　都久留米西
白梅学園　23－8　桜華女学院

▼3位決定戦
桜華女学院　14－13　都久留米西

▼決勝
文大杉並　14－10　白梅学園

北信越

高校選抜北信越予選大会

（2月11・12日／鯖江市総合体育館他）

◎男子

▼決勝リーグ
金沢市立工　24－5　新潟江南高
北陸高　34－8　上田高
氷見高　33－10　新潟江南高
金沢市立工　32－6　上田高
氷見高　26－17　北陸高
上田高　16－15　新潟江南高
金沢市立工　19－18　北陸高
氷見高　37－10　上田高
北陸高　25－11　新潟江南高
金沢市立工　20－19　氷見高

（順位）①金沢市立工業高②氷見高③北陸高④上田高⑤新潟江南高

◎女子

▼決勝リーグ
小松商業高　35－4　屋代高
氷見高　40－6　新潟江南高
福井商業高　46－6　屋代高
小松商業高　38－6　新潟江南高
福井商業高　23－11　氷見高
氷見高　39－8　屋代高
福井商業高　38－4　新潟江南高
小松商業高　24－9　氷見高
新潟江南高　19－9　屋代高
福井商業高　20－12　小松商業高

（順位）①福井商業高②小松商業高③氷見高④新潟江南高⑤屋代高

東海

岐阜県中学校選抜大会

（1月8、14、16日／県民体育館）

◎男子

▼1回戦
興文中　14－10　蘇原中
赤坂中　31－7　笠松中
星和中　13－11　桜丘中

▼2回戦
中央中　11－6　南濃中
陽南中　21－15　興文中
赤坂中　20－13　東山中
星和中　15－14　境川中
東中　20－11　中央中

▼準決勝
赤坂中　16－15　陽南中
星和中　15－14　東中

▼決勝
星和中　9－8　赤坂中

◎女子

▼1回戦
陽南中　6－4　日新中
稲羽中　20－5　城山中

▼2回戦
大垣西　23－13　陽南中
中山中　14－13　桜丘中
那加中　9－5　興文中
松倉中　21－9　稲羽中

▼準決勝
大垣西　13－6　中山中
松倉中　10－1　那加中

▼決勝
松倉中　11－10　大垣西

岐阜県選抜選手権大会

（三陽電機体育館他）

■高校の部

（1月15日）

◎男子

▼1回戦
市岐阜商業　25－5　郡上
県岐阜商業　27－14　大垣工業
岐阜東　25－6　高山工業
岐阜西工業　36－2　多治見北

▼準決勝
県岐阜商業　23－7　市岐阜商業
岐阜西工業　28－15　岐阜東

▼決勝
県岐阜商業　15－8　岐阜西工業

◎女子

▼1回戦
県岐阜商業　17－9　斐太
富田女　38－4　郡上
養老女　13－6　加納
益田　16－8　瑞浪

▼準決勝
県岐阜商業　27－23　富田女
益田　13－10　養老女

▼決勝
県岐阜商業　14－8　益田

■一般の部

（1月8、16日）

◎男子

▼1回戦
番屋　30－11　岐阜クラブ
キャロットA　21－11　三洋電機
市岐阜商ク　21－8　伊吹クラブ
大垣クラブ　16－13　凜心送球会
岐阜西クラブ　23－10　キャロットB
キャッチアップ　23－9　高山クラブ

▼2回戦
岐阜教員　26－14　番屋
市岐阜商ク　9－5　キャロットA
岐阜西クラブ　14－8　大垣クラブ
日本耐酸壜　28－22　キャッチアップ

▼準決勝
岐阜教員　17－12　市岐阜商ク
岐阜西クラブ　15－13　日本耐酸壜

▼決勝
岐阜教員　23－21　岐阜西クラブ

◎女子
▼1回戦
キャロット 18－11 高山クラブ
三洋電機 19－17 若竹
▼準決勝
岐阜教員 22－16 キャロット
三洋電機 19－17 こうよう会
▼決勝
岐阜教員 24－12 三洋電機

愛知県高校新人大会

（1月15・16・22日／ブラザー工業体育館他）

◎男子
▼1回戦
春日井南 26－8 一宮北
蒲郡東 21－15 犬山南
三河 26－18 名城大付属
松蔭 22－11 刈谷北
豊田南 23－12 蟹江
春日井西 19－16 中京
豊田北 29－10 津島東
東海 23－18 河北久
▼2回戦
桜台 14－9 春日井南
蒲郡東 22－12 半田
三河 32－20 一宮西
旭丘 15－14 松蔭
愛知 23－14 豊田南
春日井西 23－15 半田工
豊田北 22－21 豊川工
岡崎城西 31－18 東海
▼3回戦
桜台 22－14 蒲郡東
旭丘 25－13 三河
愛知 16－11 春日井西
岡崎城西 38－13 豊田北
▼決勝リーグ
桜台 24－13 旭丘
愛知 18－16 岡崎城西
岡崎城西 25－18 旭丘
桜台 18－12 愛知
愛知 26－16 旭丘
岡崎城西 15－14 桜台
（順位）①桜台②岡崎城西③愛知④旭丘

◎女子
▼1回戦
旭野 12－10 豊田北
旭丘 20－7 一宮北
安城学園 15－8 東海女
半田東 11－8 豊明
岡崎 16－8 半田
菊里 13－10 五条
豊田南 18－8 昭和
豊橋商 15－4 一宮西
▼2回戦
桜台 28－10 旭野
三好 16－14 旭丘
安城学園 17－12 一宮女
春日井西 23－2 半田東
中京女 29－3 岡崎
半田商 18－17 菊里
豊田南 23－10 蒲郡東
名短付 38－3 豊橋商
▼3回戦
桜台 21－8 三好
安城学園 16－13 春日井西
中京女 22－10 半田商
名短付 26－6 豊田南
▼決勝リーグ
桜台 16－8 安城学園
名短付 23－12 中京女
名短付 23－5 安城学園
桜台 17－13 中京女
中京女 17－11 安城学園
名短付 26－14 桜台
（順位）①名短付②桜台③中京女④安城学園

近畿

京都府選抜大会

（2月11・12日／山城総合運動公園体育館）

◎男子
▼1回戦
高校選抜 24－17 東宇治クラブ
北嵯峨高校 20－19 KHC
葵クラブ 16－15 八幡高校
洛水高校 23－10 舞鶴高専
▼2回戦
教員クラブ 20－12 高校選抜
桂クラブ 17－10 北嵯峨高校
東山クラブ 27－12 葵クラブ
京友クラブ 24－7 洛水高校
▼準決勝
教員クラブ 31－9 桂クラブ
東山クラブ 21－20 京友クラブ
▼決勝
教員クラブ 24－13 東山クラブ

◎女子
▼1回戦
教員クラブA 20－3 東宇治高校
古都クラブB 13－11 中学選抜A
東稜高校 15－5 中学選抜B
教員クラブB 20－3 古都クラブA
▼準決勝
教員クラブA 22－4 古都クラブB
東稜高校 12－10 教員クラブB
▼決勝
東稜高校 14－13 教員クラブA



【お詫びと訂正】

前号「ハンドボール競技における外傷・障害に関する調査報告」の文中に誤りがありました。下記の様に訂正し、お詫び申し上げます。

24頁 3段目11行目「スポーツ障害～」を「スポーツ外傷～」に、25頁1段目31行目「過労性障害」を「過労性骨障害」に、同24行目「受傷時の性格な診断と適切な治療が寛容」は「受傷時の正確な診断と適切な治療が肝要」に。

(財)日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第三五一号
昭和四十年六月七日 平成七年三月二十六日 印刷
第三種郵便物認可 平成七年四月一日 発行
東京都渋谷区神南一―一―一
電話 代表 三四八一―二三六一
振替 〇〇一二〇―七―一〇二九三
編集兼発行人 中澤重夫
定価三百五拾円

